

脂質吸収能と血清脂質

—牛乳摂取の効果—

帝京大学第一内科助教授

寺 本 民 雄

木 下 誠

研究目的：

正脂血症者と糖尿病高脂血症者における脂質吸収能を検討し脂質吸収能の調節機構について検討を加える。更に、脂質吸収能亢進状態において通常の牛乳摂取量が血清脂質に与える影響について検討を加える。

研究の計画及び方法

- 1) 対象：正脂血症者と高脂血症を伴う糖尿病患者
- 2) 試験方法：早朝空腹時採血後、調整クリームを脂肪 $1 \text{ g} / \text{m}^2 \cdot \text{体表面積}$ となるようにレチノールパルミテート 6 万単位とともに負荷し、負荷後 1、2、3、6、9 時間後に採血し血中レチノールパルミテート濃度を高速液体クロマトグラフィー法にて測定した。

研究結果並びに考察：

正常者 4 名と糖尿病患者 3 名についてレチノールパルミテート負荷を行ったところ、図 1 に示したように経時的にどのポイントをみても糖尿病患者においてやや血中濃度の高値を認め、特に 6 時間以降の高値が著明であった。

レチノールパルミテート負荷において吸収能を反映する指標として初期 3 時間の濃度勾配について検討したところ正常者 $43.3 \pm 20.4 \mu \text{ g} / \text{ml} / 3 \text{ hr}$ に対して糖尿病 $78.2 \pm 36.8 \mu \text{ g} / \text{ml} / 3 \text{ hr}$ と糖尿病患者で軽度の吸収能亢進を認めたが統計的に有意差は認められなかった。

糖尿病においてはカイロマイクロンの処理能が低下していることは 6 時間以降のレチノールパルミテート濃度の低下遅延があることから推定できるが吸収能の低下も推

定された。このことは実験的糖尿病においてもコレステロール吸収の律速酵素である小腸粘膜のACTA活性が抑制されていることが報告されており支持される。

次年度においては更に症例数を増やして検討するとともに、吸収能の亢進状態と考えられる糖尿病において牛乳摂取の血清脂質に及ぼす影響について検討する。

